

2014 年度 事業報告

概 況

現場を基点に技術革新と社会変革を俯瞰しつつ新たな変革の原動力を生み出すため、自由な論議の中で切磋琢磨できる場を広く提供していくことを基本方針として取り組んだ。定期的な活動である学術総会、春季討論集会を開催した。学会誌『技術革新と社会変革』第7巻第1号を発行した。会員が議論を深めることを目指して、学会ホームページ上に会員の自由投稿欄「論議の輪」を設けてある。また研究会活動として、9つの研究会が研鑽を重ねた。以上の如く実践的で具体的な活動を展開した。

I. 事業に関すること

I-1. 技術・人間・制度・社会の視点から調査・分析・研究する事業

1. 学術総会の開催

第8回学術総会を以下のように開催した。

日時：2014年9月26日（金）13：00～17：00

会場：お茶の水女子大学

参加者：73名

内容：(1)奨励賞伝達式

以下の受賞者に対して、奨励賞を伝達した。5名

濱田賢良氏

坂下雅代氏

高 玲 氏

庄司秀樹氏

川口 昇氏

(2)一般発表 1件

正木英司氏（東洋システム株式会社）

「二次電池の評価と評価装置の品質」

(3)企画テーマ 「技術伝承とマザー工場を支える新たなイノベーションの探求—世代と国境を越えた人材育成と実践教育の構築—」4件

1)「化学産業におけるリスクマネジメントを考える」

長谷川和俊氏（千葉科学大学）

特別講演「リスク管理の問題点について—化学産業を主体に—」

2)「技術伝承の現場」

横山哲夫氏（事故事例研究会）

「安全対策の伝承」
山田英雄氏（綜研化学株式会社）
「ケミカルズものづくりにおける技術伝承と人材育成」
新保利弘氏（三菱ガス化学株式会社）
「現場を支える本社の役割」

2. 春季討論集会の開催

春季討論集会（2015）を以下のように化学生物総合管理学会と共催で行った。

日時：2015年3月6日（木） 10：00～18：10

会場：お茶の水女子大学

参加者：47名

内容：2テーマについてそれぞれ2名、3名の発表の後、討論を行った。

(1)企画テーマⅠ「化学物質総合管理のあるべき姿と日本の現状」

- ・富田和之氏（パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社）
「循環型社会の構築に向けた課題と展望
-化学物質管理と環境教育の視点から-」
- ・増岡宗一郎氏（厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課）
「労働安全衛生法の平成26年改正における化学物質管理のあり方の見直し
の全体像-主旨と内容と意味-」

(2)企画テーマⅡ「グローバルな展開に求められる人材とマネジメント」

- ・井上睦子氏（文部科学省 大臣官房国際課）
「教育の国際化に求められるものと目指すもの」
- ・挟間新一氏（住友化学株式会社 人事部）
「海外事業展開における人事施策」
- ・崔英氏（綜研化学（蘇州）有限公司）
「人材の視点から見る海外事業展開
-中小企業のグローバル化への対応例-」

3. 学会誌『技術革新と社会変革—現場基点—』の発行

(1) 第7巻1号（2014年9月発行）総ページ 61ページ

報文：2件 坂下雅代氏

『事業継続計画策定を目的としたサプライチェーン構築への
挑戦』

須藤繁氏他

『小売業界におけるコンビニエンスストアの進化
—主要事業者としての課題と責任—』

報告：3件

高玲氏

『社会的評価とイノベーション戦略の考察』

庄司秀樹氏

『二次電池の技術革新と評価計測技術ーグローバルスタンダード化を支えるビジネスモデルと企業理念ー』

川口昇氏

『技術革新と社会変革をつなぐ基準認証制度ー米国の公共安全に対する第三者認証制度と理念ー』

4. 講習・セミナー

学会主催のセミナーはなかった。

5. その他

(1) 自由投稿欄「論議の輪」の活用

2011年3月にホームページの投稿欄を「論議の輪」としており、個人の意見やテクニカルレポートなどの紹介に活用されることが期待される。2014年度は投稿件数が1件であった。投稿者とタイトルは以下のとおり。

社会技術革新学会有志・化学生物総合管理学会有志

『「規制改革実施計画」に求められる化学物質管理政策の見直しの重点はリスク管理の適正化と国際競争力の向上』

I-2. 技術・人間・制度・社会の視点から集大成・体系化する事業

今年度の活動実績はなかった。

I-3. 教育・普及・啓発に関する事業

1. 教育・啓蒙

(1) 「知の市場」の紹介をホームページやニュースレターで行った。

(2) 以下の科目について研究会が知の市場の連携機関になり開講した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
石油サウジアラビア教育研究会				
UE535	資源・エネルギー安全基礎論	技術革新と社会変革に深く係る資源・エネルギーとリスク管理のための社会的規範を巡る世界の動向を語る	東京工業大学	前期

法制教育研究会				
ET572	コーポレート・ガバナンス	国際比較の視点からみた株式会社の組織と運営の課題	日本リファイン	前期
CT574	法学入門	実践的考察を通じたリーガルマインドの涵養	お茶の水女子大学	後期
社会技術革新学基礎教育研究会				
UT516	社会技術革新学基礎論	社会変革と技術革新の歴史を検証し付加価値を生み出すイノベーションの真髄を探る	お茶の水女子大学	前期
社会技術革新学教育研究会				
GT712	国際企業特論 1	多様化する化学産業における基本技術と事業のグローバル化	三井不動産	前期
51	社会技術革新論 a		大分大学	後期
BF517	国際競争力学 a		東洋システム	通年
リチウム電池教育研究会				
BT515	社会技術革新学事例研究 1	リチウム 2 次電池開発の歴史に見る技術革新と経営革新の成否の要因	東京駅前カンファレンスセンター	前期
多様性基礎教育研究会				
615a	地域力論 a		鹿児島知の市場	前期
615b	地域力論 b		枕崎知の市場	前期
723a	日本力論 a		鹿児島知の市場	前期
723b	日本力論 b		枕崎知の市場	前期
71	国際多様性論 a		大分知の市場	後期

(3) 以下の講座について研究会は知の市場の連携機関になり、2015年度開講に向けてシラバスを検討・作成した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
韓国学教育研究会				
シラバスの作成はなかった。				
石油サウジアラビア教育研究会				
UE535	資源・エネルギー・安全基礎論	技術革新と社会変革に深く係る資源・エネルギーとリスク管理のための社会的規範を巡る世界の動向を語る	東京工業大学 大岡山キャンパス	前期
法制教育研究会				
シラバスの作成はなかった。				
社会技術革新学基礎教育研究会				
シラバスの作成はなかった。				
社会技術革新学教育研究会				
BF138	国際化学物質総合経営学		東洋システム	通年
51	社会技術革新論 a		大分大学	後期
リチウム電池教育研究会				
BA515	社会技術革新学事例研究 1	リチウムイオン二次電池開発の歴史に見る技術革新の成否の要因	トヨタ産業技術記念館	前期
多様性基礎教育研究会				
71	国際多様性論 a		大分知の市場	後期
金融教育研究会				
シラバスの作成はなかった。				

2. 奨励賞制度の運用

選考の対象として、学会誌投稿、技術革新と社会変革に資する活動や、それらに係る教育の発展に資する活動について、2014年5月30日の第26回理事会で奨励賞候補者を審議した。

最終的に以下の 5 名に決定した。

濱田賢良氏

坂下雅代氏

高玲氏

庄司秀樹氏

川口昇氏

奨励賞伝達式を 2014 年 9 月 26 日の第 8 回学術総会で行った。

I - 4. 講演会及び研究会開催に関する事業

1. 講演会

今年度中の実施はなかった。

2. 研究会活動

9つの研究会の活動を行った。

(1) 事故事例研究会 (Ⅲ)

2013 年度 6 月～2015 年 5 月の予定で、研究会活動を展開した。9 月 26 日の第 8 回学術総会においてⅢ期の活動報告が行われた。

(2) 韓国学教育研究会

2013 年 4 月～2015 年 3 月の予定で、研究会活動を展開した。

(3) 石油サウジアラビア教育研究会

2013 年 10 月～2015 年 3 月の予定で、研究会活動を展開した。

(4) 法制教育研究会

2013 年 10 月～2015 年 3 月の予定で、研究会活動を展開した。

(5) 社会技術革新学基礎教育研究会

2013 年 10 月～2015 年 3 月の予定で、研究会活動を展開した。

(6) 社会技術革新学会教育研究会

2013 年 4 月～2015 年 5 月の予定で、研究会活動を展開した。

(7) リチウム電池教育研究会

2013 年 10 月～2015 年 3 月の予定で、研究会活動を展開した。

(8) 多様性基礎教育研究会

2013 年 10 月～2015 年 3 月の予定で、研究会活動を展開した。

(9) 金融教育研究会

2013 年 10 月～2015 年 3 月の予定で、研究会活動を展開した。

I - 5. 広報活動

1. ホームページ

学会の PR ツールとして、ホームページを開設しており、適宜改定した。

2. 会員向けニュースレター

会員宛での連絡ツールとして No.98~No.112 まで合計 15 回を発行した。
(2013 年度は 15 回)

II. 管理・運営に関する報告

1. 通常総会（第 9 回）

開催日時：2014 年 6 月 20 日(金)

会場：お茶の水女子大学

主要議案：・2013 年度事業報告及び決算の承認の件
・2014 年度事業計画（案）および予算(案)の承認の件

2. 理事会

第 26 回から第 28 回まで 3 回開催された。

(1) 第 26 回 2014 年 5 月 30 日（金）

主要議案：・定款の変更の件
・2013 年度事業報告および決算の承認の件
・2014 年度事業計画および予算の変更承認の件
・通常総会の開催と議案の決定の件
・奨励賞受賞者の選考ならびに決定の件

(2) 第 27 回 2014 年 10 月 9 日（木）

主要議案：・第 8 回学術総会報告
・中間期活動報告及び中間決算報告
・情報基盤の強化の進捗状況
・春季討論集会開催についての自由討論
・来年度事業計画及び事務局の在り方に関する自由討論理事長の互選の件

(3) 第 28 回 2015 年 3 月 19 日（木）

主要議案：・2015 年度活動計画（案）及び予算（案）承認の件

3. 監査

2014 年 5 月 7 日に前年度の業務執行状況および会計処理状況についての監査を実施した。適正であるとの監査結果であった。

4. 企画運営委員会

3 回開催し、学会の運営に関して具体的な施策を企画、立案するとともに業務の推進、調整を行った。理事会と同時開催の形で開催した。

2014 年 5 月 30 日（金）

2014 年 10 月 9 日（木）

2015 年 3 月 19 日（木）

5. 学会誌編集

E メール臨時編集委員会を活用しながら適宜開催し、学会誌の編集方針や内容の検討を行った。学会誌『技術革新と社会変革』第 7 巻 1 号を 2014 年 9 月に発行した。

6. 情報基盤の強化

情報基盤の強化のため、

- ・ホームページとメールのサーバー切換え
 - ・ホームページのワードプレス化
- を行った。

7. 会員動向

2014年度の会員数の増減は下表のとおり。

	2014年				2015年
	4月1日	変更	入会	退会	4月1日
正会員	30	1	6	2	35
学生会員	6	-1			5
賛助会員	1				1

賛助会員名簿 2015年4月1日現在（入会順、敬称略）

日本化学工業株式会社

8. 会計

当学会は、年度内実収入を会計処理基準にしている。活動内容を充実させること、大学研究室への過度な依存を解消していくことを念頭に置きながら支出管理を行った。結果として、2014年度は経常収益 719,929 円に対して、研究室の寄与もあり 99,317 円の経常費用となり、当期としては 620,612 円の増加となった。

※その他の事業（収益事業）については、実績はなかった。

以上